

牛久市は「ゼロカーボンシティ」に取り組むことを表明します

「ゼロカーボンシティ」^{※1} 表明の背景

気候変動問題は、地球に生きる全ての生き物にとって、避けることのできない喫緊の課題であります。温室効果ガスは、現在もなお排出され続け、集中豪雨および巨大台風による水害などの自然災害は、頻発化・激甚化が予測され、私たち人類や全ての生き物にとって、生存基盤を揺るがす「気候危機」と表現すべき事態とも言われています。

こうした状況を踏まえ、2015年に合意されたパリ協定では「産業革命前から平均気温の上昇を2度未満とし、1.5度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、2018年に公表された国連の気候変動に関する政府間パネルの特別報告書においては、この目標を達成するには「気温上昇を2度よ

りリスクの低い1.5度に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされているところです。

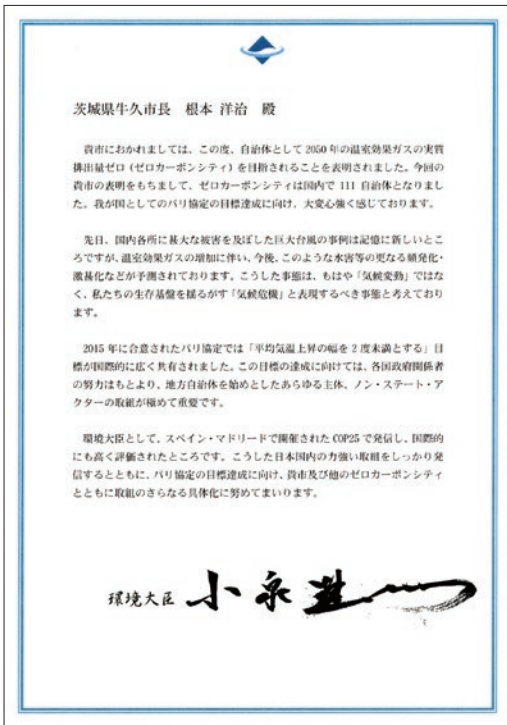
環境省では、こうした目標の達成に向け、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指す旨を首長自らが公表した地方自治体を「ゼロカーボンシティ」として国内外に広く発信する

とともに、全国の自治体へ表明を呼び掛けていきます。
 (※排出実質ゼロ：CO₂などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成すること)

牛久市の取り組み

牛久市は、2008年にバイオマスタウン構想を策定し、地域から排出されるバイ

オマスの利活用により、二酸化炭素の排出削減に取り組んでいます。今後は、脱炭素社会を目指すべく、2050年二酸化炭素実質排出量ゼロに取り組むことを表明し、市民の皆さまと事業者の皆さまと共に、その実現に向けて挑戦してまいります。



ゼロカーボンシティ認定書

※1：環境省ホームページ「ゼロカーボンシティ」
<http://www.env.go.jp/policy/zerocarbon.html>



※2：バイオマスタウン構想

生物由来の資源(バイオマス)を利活用することにより地域循環型社会を構築し、地球温暖化防止を目指すもの。牛久市は取り組みが評価されて平成25年に国のバイオマス産業都市に認定。

